

秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	若者の将来目標の明確化、行動の積極化		
研究代表者	渡部 昌平	役職	准教授
フリガナ	ワタベ ショウヘイ	学位	修士（心理学）
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	watanabe-s@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)	(内容により) 渡部諭教授、小池孝範准教授		
主な共同研究者(学外)	無し		
研究の内容			
<p>●「仕事理解」「自己理解」の具体化・効率化</p> <p>人類の持続可能な発展を支える人材の育成が求められています。一方で将来の目標を具体的に立てられない若者が増えています。また将来目標が明確でないために、それに向かう具体的な行動（積極的な行動）が取れていない若者もたくさんいます。フリーター・ニートの増加、早期に離職する若者の課題等も指摘されているところです。若者の将来目標の明確化が必要です。</p> <p>職業に対する自分の興味や関心を明確化したり、これまでの経験を振り返って「頑張ったこと」「楽しかったこと」「心に残っていること」を振り返ったり、「人にしてもらってうれしかったこと」「人にしてあげて感謝されたこと」などを振り返ったり、いろいろなワークを通じて「やりたいこと」「やるべきこと」を探す自己理解の効果的・効率的な方法を研究しています。</p> <p>また仕事理解についても、従来のような「仕事内容の理解」だけでなく、「その仕事の、自分にとっての意味」「その仕事の、社会における意味」などを振り返ることで、仕事のやりがいや働きがいについて考えてもらう方法を考えています。</p> <p>グループワークを何度か実施し、その中でリーダーもメンバーも両方体験してもらい、「どういうリーダーがいいリーダーか」「どういうメンバーがいいメンバーか」ということを振り返ってもらうということもして、若者にどんな変化があるかを検討しています。「どういう仕事がいい仕事と思うか」という問いかけをして、その効果を検討しています。</p> <p>これまでの経験では、若者自身が「やらなければならないこと」を認識し、自らスケジュール感を持って行動をし始めると何事にも積極的になるという印象を持っていますが、一方で、いろいろなワークをやってもなお「何をしたいかわからない」という学生が少なからず存在します。</p> <p>また「啓発的体験」の中心を担うインターンシップ（職場体験）ですが、確かに多くの若者は「参加して良かった」と帰って来ますが、その成果を見ると1人1人異なるように思います。「何かを学びたい」「社会人としての知識やスキルを身につけたい」と参加した学生はかなり成長してくるものの、「就職に有利」「とりあえず」と参加した学生は（成長しないとは言わないものの）成長に差があるように思えます。</p> <p>これらは若者の事前の意識の持ちようによるものと思っています。「だから仕方がない」ではなく、講義や簡単な体験でも十分に変化をさせられると考えています。その効果的な方法を探るため、各種ワークに質問紙調査やインタビューなどを組み合わせ、研究を行っています。</p> <p>こうした取組は大学だけでなく企業や小中高その他関連機関との連携が重要と思っています。</p>			

研究の独自性・アピール点

キャリア教育における従来の「仕事理解」は仕事内容の理解または職業適性の理解が中心であり、「働くことと学ぶことに関連性」「仕事が社会でどう必要でどう機能しているか」などはなおざりとなっていた面がありました。

今や学生（若者）は職業を「自由に」選べますが、自由がゆえに選べない学生（若者）も増えています。一旦選択肢を狭めてから「その職業をなぜ選んだのか」「その職業選択にはどういう意味があるのか」と問うて自分自身の職業的価値観に気づかせる、次は逆に「その価値観を満たす職業は他にないか」と選択肢の幅を広げる、いろいろなやり方を検討しています。

期待される成果・波及効果

若者が明確な将来目標を持てるようになり、積極的になる
企業や社会がより活性化、生産的になる
課題を通じて、小中高、企業等と共通認識に基づいた議論ができる

関連する主な業績

渡部昌平「大学生のための「キャリア設計」書き込みノート」, 2012, 三文舎
渡部昌平「本学におけるキャリア教育の方向性の検討(1)」, 2012, 秋田県立大学総合科学研究彙報13
渡部昌平「キャリア教育における自己理解と仕事理解の重要性について」, 2011, 日本キャリア教育学会第33回研究大会

キーワード

キャリア教育、仕事理解、自己理解、目標設定、やる気、積極性